

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月8日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401699		
法人名	有限会社 なごみ会		
事業所名	グループホーム諏訪の里		
所在地	〒859-1504 長崎県南島原市深江町丁1520番地 (電話) 0957-72-5388		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年11月27日	評価確定日	平成21年2月3日

【情報提供票より】(平成20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平成	15年	10月	1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	9人	常勤	6人, 非常勤	3人, 常勤換算
				5.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄骨 造り		
	2階建ての	2階	~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均	83歳	最低	72歳	最高
					92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	泉川病院・島原保養院・上田歯科・八尾病院・しるの医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの庭から雲仙普賢岳が見渡せ、居間からは有明海が一望できる風光明媚な開放感溢れる立地環境である。周囲は住宅地であり、車の通りも少ないため気軽に安心して散歩を楽しむこともでき、散歩の途中で近所の方と立ち話をされたりして、自然な形で地域住民との交流が図られている。ホームに隣接して家庭菜園があり、入居者と職員が協働して農作業を行うことにより「生活の質の向上」に努められている。「地域の中で輝き共に生き支えあえる環境づくり」を理念として掲げ、入居者が地域の中で普通の暮らしを送ることができるよう積極的に地域の行事や催しに参加し、ホームの理解が深まる取り組みもなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点では、運営推進会議を活かした取り組みと事業所の多機能性を活かした支援が挙げられており、運営推進会議を活かした取り組みについては、地域の中で認知症やホームについての理解が深まる取り組みを運営推進会議を通して具体的に進められる予定である。また多機能性を活かした支援については、ケア会議等でさらに入居者のニーズの把握に努め、よりきめ細かく柔軟に対応されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価を新たな気づきの機会として捉え、外部評価の結果を全員で検討するなどして、新たな見方や考え方を日常のケアに活かし、さらにサービスの質の向上へ繋げている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議では、ホームの近況報告や行事の開催状況、入居者の状況についてなどの議題で討議されている。近況報告では、ホームでの事故の経過と今後の予防策についての説明や、入居者の状況について詳しく説明されているが、今後さらに、様々な事項を考慮し、会議がさらに有意義なものとなるように検討されることが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族から要望や苦情、意見を気軽に言えるような関係づくりに日頃から努めており、直接言いにくいことはホーム内に設置している意見箱に投函していただけるようお願いしている。申し出があった場合は職員全員で検討し、運営全般に反映させるようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地元深江町の産業祭や地区の清掃活動に参加したり、自治会の子どもたちとの交流会を開催するなど積極的に地域の行事や活動に参加している。また、散歩の途中で親しくなられた近隣の方のお宅へお邪魔してお話されるなど、自然な形で日常的に交流されている。

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民の一員であるという意識を持って暮らしていくことを「地域の中で輝き共に生き支えあう環境づくり」という理念で表し、取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者を含め職員全体で理念を共有し、また常に意識したケアを実践できるよう日々のミーティングや会議などで確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	深江町産業祭や地区の清掃活動に参加されたり、自治会の子どもたちとの交流会を開催されるなど積極的に地域の行事や活動に参加している。また、散歩の途中で親しくなられた近隣の方のお宅へお邪魔してお話されるなど自然な形で日常的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を新たな気づきの機会として捉え、外部評価の結果を全員で検討するなどして、新たな見方や考え方を日常のケアに活かし、前回の改善点は改善計画シートを作成し、計画的に取り組まれ、さらにサービスの質の向上へ繋げている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者の状態や行事、研修の実施状況などについて報告され、各委員の方々から意見を聞いている。参加者の意見の引き出しや、構成メンバーに苦慮している。		会議で報告が中心で意見などは少ない様子なので、運営推進会議の主旨や目的を各委員の方々ともう一度再確認され、議題により、オブザーバーを呼ぶなど会議がさらに有意義なものとなるように検討されることが望まれる。

グループホーム 諏訪の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	島原地域広域市町村圏組合の担当者へホームの運営全般について伝えるなどして、日常的に意見交換している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームに来られた際に日常の暮らしぶりや健康状態をお伝えしたり、金銭出納帳を確認して頂いたりしている。また遠方にいらっしゃる御家族へは電話連絡をしたり、広報誌に手紙を添えて送付するなどして近況を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から苦情や要望を気軽に言えるような関係作りに日頃から努めており、直接言いにくいことはホーム内に設置されている意見箱に投函していただけるようお願いしている。申し出があった場合は全員で検討し、運営全般に反映させるようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、入居者への影響を考慮して極力行わないようにしている。離職される場合も入居者が不安にならないように、影響が最小限度で済むように他の職員が頻繁に声をかけるなど対応をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数や勤務経験に応じて、必要な研修には参加できるようにしており、同業者の団体主催の勉強会や、島原地域広域市町村圏組合主催の研修会など積極的に参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域にグループホームケア研究会という同業者の組織があり、そこが主催する勉強会や研修会には積極的に参加し、また相互訪問等を通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームの見学を何度かしていただき、入居者の方と交流していただいたり、実際にホームでの生活を体験していただくなどして、本人のペースで徐々に慣れていただけるように工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者も職員も共に一緒に生活するという視点で、入居者から生活の知恵や工夫を教えていただき、それを実際の生活に活かしながら相互に支えあう関係づくりに努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人と直接話し、希望や意向を聞かれることは勿論、ご家族とも十分話し合い、本人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、本人のそれまでの生活歴やホームでの表情や態度などから把握するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族と十分に話し合い、希望や意見を踏まえ、それらを反映したケアプランを作成している。介護度の高い入居者については、本人の意向の把握が困難ではあるが、家族と十分話し合い本人らしい暮らしができるような介護計画になるよう配慮している。個別ケア記録に状況を記入し、介護計画作成後は家族の同意を得ている。継続して、本人の希望を取り入れた介護計画の作成に期待したい。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月毎に見直されており、見直しについてはこれまでの状況を把握・検討されたうえで新たな介護計画を作成している。また、途中変化があった場合には家族も含めて検討し、見直している。</p>		

グループホーム 諏訪の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の付き添い支援や入院された方の早期退院へ向けた支援、空き部屋を利用したショートステイ、家族の宿泊、本格的な菜園等入居者及び家族の要望には柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医と連携を図り、必要に応じて情報交換を行うなどして適切な医療を受けられるようにしている。また、緊急時の対応についても救急指定医療機関と連携し、救急の場合にスムーズに医療が受けられるようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び終末期についての指針を作成し、入居時に本人及び家族に説明している。また、実際にそのような状態になった場合にはかかりつけ医も含めて話し合い、きめ細かく対応するようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳に配慮した対応や言葉かけについて、及びプライバシーの保護について、会議やミーティング時に職員全員で確認するようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の過ごし方は、その時々希望や意向、また体調面も考慮しながら柔軟に対応するようにしており、その人らしく過ごせるように支援している。		

グループホーム 諏訪の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の際は食材を刻んでもらったり、片付けも食器洗いやテーブル拭きなど、できるだけ入居者と一緒に行うようにしている。献立も職員が決めるのではなく、入居者と一緒に考えて決めている。また、菜園の作物が食卓を飾る事が多々ある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は入居者全員入浴の支援・介助が必要なため、入浴できる曜日が週4回となっており、その曜日であればいつでも自由に入浴できる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの生活歴や趣味などを把握し、ホームでの生活にそれを活かし、「本人らしく過ごせる」ことの支援に努めており、ホームの家庭菜園の作業など生きがいを持って取り組まれている入居者の様子が伺えた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見や地域の催しなどのホームの行事としての外出の他に、近隣の散歩などはいつでも自由に出かけられるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の自由な暮らしを支援する意義を十分理解されており、そのため日中は鍵をかけていない。外出希望者には常に同行し、近隣の住民とは散歩等で関係性を確立している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地元消防団、近隣の方々の協力を頂きながら総合避難訓練を行い、災害時の迅速な避難のための訓練及び地域との協力体制構築に努めている。		災害対策については、地震や台風などを想定した訓練も行うことに期待したい。また、災害によってはライフラインが寸断され、ホームが孤立することも考えられるので、食料や飲料水の備蓄やその他必要な備品も予め準備しておくことが望まれる。

グループホーム 諏訪の里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食後チェックし、水分摂取も確認し、把握している。摂取カロリーは定期的に管理栄養士にカロリー計算してもらい、十分なカロリーが摂取できているか確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日射しの調節は、夏は冷房に頼り過ぎないように、また季節感を感じれるように、よしずを使用したり、遮光カーテンを設置している。また室内に自然の光が入り込むように採光にも配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の殆どが日中はリビングで過ごされ、就寝時に居室を利用されている。家族の協力がなかなか得られないとのことで、本人が使い慣れた品々や思い出の品々等の持ち込みがあまりない様子である。		本人がホームで安心した生活を送れるためには居心地のいい居室作りが大切であることを改めて家族に説明し、本人に馴染みのあるものや、使い慣れたものをできるだけ持ち込んでいただく取り組みに期待したい。